

曲輪で表現される小宇宙

—見上げるとそこには星々(曲輪)の煌めき—

Japanese cypress craft exhibition

曲輪の球体 展

in 新潟ふるさと村アピール館

2021/11/27(土) ~ 12/26(日)

曲輪の球体とは…

曲物の伝統技術を用い、折れやすいヒノキの曲輪を山桜の皮で一本一本丁寧に綴じて作る曲輪の球体。お花や植物をあしらったり、照明を置いてみたり、天井から吊るしてみたり…。季節のしつらいに、インテリアに、お店や展示のディスプレイに…様々にお使いいただけます。

〒950-1101 新潟県新潟市西区山田 2307-1

お問い合わせ TEL: 025-230-3030



曲物職人

足立 照久 Teruhisa Adachi

足立茂久商店 11 代目

日本海に面した新潟県寺泊の山田では、江戸末期(天保時代)にすでに師業組合が存在し篩(ふるい)・裏漉し(うらごし)・蒸籠(せいろ)などが盛んに作られていた。その歴史をくむ当店は、照久で 11 代目。

長岡市無形文化財に指定されている「寺泊山田の曲物」。檜(ひのき)の曲輪を桜の皮でとじ合わせ、真鍮網(しんちゅうあみ)や絹網を張った篩、馬の毛の毛網を張った裏漉し、昔ながらの作り方を頑なに守ってきた蒸籠。道具は使われてはじめて生きるもの。伝承された技で、常に本物だけを作り続けている。

「寺泊山田の曲物」の技術を活かし、現代の人でも手軽に使えるようにと「電子レンジで使えるわっぱ」や、従来からの道具にとどまらない新たな作品として「曲輪スツール」、和紙を用いた照明「ゆきほのか」、曲輪の球体と花器を組み合わせた「花結び」なども開発、製造している。伝統の技で、今に生きる物作りを目指す。





















































